

## 2015年世界連合総会に向けてドン・ボスコと共に

### 中核となる第3の文書(5月-6月) サレジオ家族担当中央評議員 Sr. Maria Luisa Miranda からデレガータと同窓生への言葉

さて、ドン・ボスコによって導かれ、靈感を与えられ、ドン・ボスコと共に歩む 2015 年の同窓会世界連合総会に向けての養成の文書も第 3 回目になりました。既に第 1 と、第 2 の文書に対する分かち合いや、会合での個人や、グループの意見が届いています。分かち合いと、祈りと、反省を通して、友情と一致を育みながら、これら養成のための文書の目的が同窓会の豊かさや美しさを自覚することだ、と強く感じる事が大切です。個人や、グループで答えることができる質問表への考察のためにいくつか提案しましょう。背景には時間が少ないということがあります…ですから、質問のすべてに答える必要はなく、あなたたちが分かち合いたいと思って狙いをつけた質問だけを選んで答えることもできるのです。

今回はサレジオ家族担当中央評議員の Sr. マリア・ルイサ・ミランダの言葉で「扶助者聖母会同窓会に所属する意味について」というテーマです。この第 3 番目の文書を注意深く読むと、特別な考察と、明白な過程、心理学的、教育学的な見方をつかむことができるでしょう。この文書は [www.exaliefvma.org](http://www.exaliefvma.org) の Vita Associativa で見ることができます。質問への回答はシスター・マリツァ [maritzafma@yahoo.com](mailto:maritzafma@yahoo.com) に送ってください。

### 扶助者聖母会同窓会に所属することの意味

Sr. Maria Luisa Miranda

#### アイデンティティーと帰属意識

私たちは「人間であることの優位性が否定されるような人間学的難局」(フランシスコ教皇「福音の歓び」)と言われる時代に生きています。現代は時間の細分化、多元主義、相対主義やその他の現象のため、自分自身のアイデンティティーや帰属意識を手に入れるのが難しいのです。

アイデンティティーと帰属意識は同じ現実の二つの極と言えます。それらは人に自分自身と、自分を取り巻く世界とを自覚させます。そこでは人は一人ぼっちでも孤独でもなく、自分より大きな、時空に先行して、同時にその歴史さえ超越している何者かの一部なのです。

哲学者シモーヌ・ヴェイユによれば、人間はだれでも皆、多様な根を持つ必要があり、生来所属している周囲の環境を通して受ける道徳的、知的、精神的生活の全てを受け入れる必要があるのです。事実、私たちはより大きなものの一部だと感じると孤独から解放され、人生への挑戦に際してより確信が持てるようになります。

この所属しているという感情には、グループ内の一員だという単純な事実以上に、個人的な一体感、心情的絆の発生、規制の受け入れ、共有された価値観と習慣、他のメンバーとの連帯ということが含まれます。実際、到達した一体感が大きく、且つグループ独特の模範を受け入れる傾向が大きいほど、私たちが平穩に生活する可能性、社会的関わり、人生を乗り越えていく意味はより大きくなります。

このように、人はその価値観と習慣とに同化しようとするために、関わる人々に対して配慮するという人としての自覚ある態度を成長させます。この感覚は、グループと一体化し、公に共同体への同意と支持と加入とを表明し、必要ならば共同体を守る準備ができていと表明する積極的行動を起こさせます。なぜなら共同体は自分自身の一部であり、ある意味では一体性と同一性を確約しているからです。

社会心理学は、帰属意識は家族や共同体内部に受け入れられ、つながっているという感覚をもたらす、と実証しています。団体や、グループの一員となるという事は個人の健全な発達のために重要で、また反社会的な行為や自尊心の低下や気分の落ち込みという問題と戦うために重要だ、と言っています。

今日では、私たち自身のアイデンティティーを保ち易くし、私たちの小さな世界を超えた向こうにおられる何者かを体験するために、私たちの同窓会のような団体の一員となる事が、歴史上の他の時代よりもずっと重要になっています。それは私たちの世代を脅かす自己陶酔的な個人主義や、孤独孤立状態から解放されるためです。どんなソーシャルネットワークも人と人との人格的出会いを与えてはくれません。ましてや、グループ内で使命や展望を分かち合う時に得られる豊かさ、とりわけ人間に確実な根拠を与えてくれる原理としての生命の意味と価値についての体験を与えてくれることなどありません。

#### 選ばれた所属対象としての扶助者聖母会同窓会

聖書の言葉によれば「全てはあなたがたのもの、そしてあなたがたはキリストのものであり、キリストは神のものです。」(I コリント 3-23)と、聖パウロはコリントの共同体内部の「帰属意識」の食い違いに決着をつけていま

す。所属することは奥深くではひとつのアイデンティティーにつながっていますから、パウロはアポロ、ペトロ、パウロといったコリントの信徒たちに福音を教えた人の名を挙げ、彼らを越えた先にキリスト者の最も奥深いアイデンティティーがあることを思い出させるのです。全ての契約は「キリストのものである」ことに由来するのだ、と。

グループや、団体を導く責任者たちが心掛けるのは、高い「帰属意識」を保つことです。これは一致させる力となり、メンバー同士の連帯感と共有関係を創り出し、団体をたまたま偶然に集まったというような、単なる「集合」にならないようにします。

帰属意識とはアイデンティティーの抽象的でない表わしかたです。アイデンティティーと帰属意識はコインの表裏のように互いに絡み合っています。アイデンティティーの葛藤は所属することの中で目に見えるものとなります。私たちが所属するものには、家族、民族などいくつかあり、多かれ少なかれ拘束力があります。また、信条や、人生をかけて熟慮した上で手に入れた所属もあります。また私たちの場合のように、提供された提案や価値観と一体になれる団体に自由意思で所属するものもあります。

ある団体への所属は、その基礎に自分自身のアイデンティティーやグループのアイデンティティーへの十分な自覚がないと長続きしません。自分自身の価値観とグループの価値観の一致がない時や、団体の中で互いに認め合えない時にはそういうことが起こります。

帰属意識のないアイデンティティーは自己陶醉や個人主義を生みます。さらに、アイデンティティーのない帰属意識は状況に応じてかぶる仮面のようなものです。個人にとってもグループにとっても、提案された目的に対して敬意を払うという豊かさも熱意も生み出さないし、団体の一員として、また個人として表現したい価値観に納得の上で同意することなどありえません。

そういうわけですから、私たちの同窓会が何なのか、その使命、展望、そしてなぜ存在するのかを正確に提示することができるというのはとても大切なことです。このようにして、参加はより深く、永続的となるでしょう。帰属意識は一体となった同窓生たちと共に、どうやってサレジオ的価値観を表現するかを選び取るでしょう。結論は一つの力強い、重要な言葉「絆」と言い換えることができます。この言葉は、この行き当たりばったりで、使い捨ての文化の中では、特に決め手となります。

## 「成長する」帰属意識

私たちのようにある団体の一員となるという事には固有のアイデンティティーと、所属することの結果を成熟させるための養成、成長、強化の一定のプロセスが必要です。帰属意識のいくつかのレベルについて申し上げます。

### 第1. 形式上の所属

このレベルの人たちは、会の中にあつて、傍観し、時折参加しますがあまり責任を持って働きません。総体的な満足感と同窓会への配慮があります。求めるものが少ないので、時々不満はあつても程度は低いです。この人たちは積極的というよりは受け身的で、同窓会は私たちに何を与えてくれるのか？どんな利益があるのか？という姿勢をとります。そこには「契約」という考え方もあります。私が与えることができるものの代わりに会から何か恩恵を受けようとします。

### 第2. 活動的な所属

この帰属意識には将来性があり、グループに活力を与えます。これは同窓会の中にあつて、各自の年齢や生活条件に合わせたやり方で、役割を感じ、共に働き、積極的に参加しながら、会が提示する価値観を身につけた人たちの生き方の姿勢です。そこにはどんな利害も超えた、同窓会を愛する内面的な誠実さがあります。

このレベルには、絆を結び、価値と意味を与え、互いに尊重し合い、信頼と愛情を与えるような、奥深い参加という内面的姿勢があります。ですから、悲しみと喜び、困難と希望、そして計画をメンバーの間で分かち合います。一つの言葉で「感動的な」熱意が現実になります。それはグループの残りの人たちとの交友関係を生み、光と影、限界と可能性を持った、今の同窓会の現実を手に入れます。そして、自分自身のこととして「責任を持って」それを感じます。

### 第3 帰属意識の質的変換

これは、第一に自分自身の受諾の基準、行動の規範として内面的にも対外的にも参加することを表現する、最も高いレベルです。自発的な人だけが変換した帰属意識を生きることができます。なぜなら、三つの姿勢に特徴づけられた、決定的に高いレベルへの参加によって法的所属と活動的所属を超えて行くからです。その姿勢とは具体的な行動と態度で表される、役に立とうという姿勢、寄与する姿勢、受け入れる姿勢です。すなわち

- 同窓会の歩みを元気づけていく姿勢。膠着や反復ばかりではなくダイナミックな生き方をする姿勢。

- 常に変わらず永続的で前向きな変革のために働きながら、同窓会の道徳律への一貫した誠実さで建設的に会を促進する姿勢。ただし、時と場所の現実に応じた柔軟性を持っています。
- 同窓会の将来に対し着想を与え、種をまく姿勢。グループ内の困難さや正常な成長のプロセスを受け入れ、困難な時期を乗り越えてはそこから学ぶ「楽観的な回復力」を育み、同窓会の在り方と表し方の新しい方法を創造し、永続的に会を刷新していきます。

この加速的な変化、失われたアイデンティティー、結びつきに欠けた弱い帰属意識の時代にあって、夢を見た先人たちの相続人として、またドン・ボスコとマリア・マザレロのカリスマを受け継ぐ者として、扶助者聖母会同窓会の会員たちは「既成概念にとられない場」を提供するという使命を持っています。

創設者ドン・リナルディがトリノの最初の同窓生に対して提案したのも同様のことです。(1908年の同窓会規約の「会の目的」の項参照)

- 固有のアイデンティティーを強め、涵養する場所である;
- サレジオ的キリスト者の価値観に立脚した信徒としての生き方のための成長と努力の場である;
- 困難の中で支え合い励まし合い、サレジオの特徴である家族的精神で互いに共にあゆみながら、人生の歩みの中で勇気づけ合うために参加するグループである;
- 信徒としての成長の歩み、人間性の実現、私たちの創立者とマンマ・マルゲリータの生き方に導かれたキリスト者としての生き方の実現;
- 地域的、世的必要性を展望しつつ、身近な隣人が必要としている奉仕と寄付の機会を同じ同窓生から始める;
- 私たちの教師たちのカリスマと、私たち同窓生にとって旅路の伴侶、母、教師、信心の友である扶助者聖マリアとの永続的絆を結ぶ:つまり「神様の子供となって、キリストの兄弟となる」ため「誠実な市民」としての勤めを果たす。なぜなら真実、正義、愛、平和の王国である神の王国、は 社会の中で認められ、社会を変革するはずのものだから。

### ウニオーネ本部と支部の役員たち並びにすべての同窓生へ向けた質問.

1. 上記「サレジオ家族担当中央評議員 Sr. Maria Luisa Mirand からデレガータと同窓生への言葉」をよく読んでください。
2. Sr.マリア・ルイサが提示された文について;あなたが生きているこの超現代的な時代にあって、同窓会への帰属意識の危機を何か経験していますか?
3. 考えてください。これは危機の時でしょうか、または各ウニオーネや管区連合の中で家族的雰囲気や一致、簡潔さ、サレジオ精神を新たにしながら同窓会への正しい帰属意識をもって本当に成長するためのチャンスでしょうか? 同窓会への帰属意識の中で成長するための具体的な道筋と活動を提案するあなたの回答を述べてください。

